

病気の経過の確認を主とした診察で毎回病院へ行くのは手間と出費が発生します。また、患者にとって診察内容を正確に把握し覚えることは困難です。そこで自宅で診察を受けられたり、いつでも医師からの指示を振り返ることができるシステムを作ること、病院外での治療を支援します。

院外治療の現状

病院への訪問、医療関係者へのインタビューなどから次のことがわかりました。

- ・患者は不安や疑問を医師にうまく伝えることが出来ない
- ・医師は診察外の患者の様子を知ることが困難
- ・院外での治療方法が確立していない
- ・安定期の患者は遠隔でも十分に診察できる

これらの調査を踏まえて、院外での患者の様態を医師と患者の両方が把握できるシステムと物理的な距離を超えて診察を受けられるシステムを構築することが必要だと考えました。

支援システムの提案

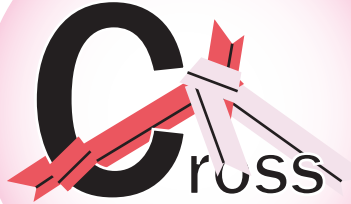
院外治療支援システムは、慢性疾患の中でも自宅での治療をしている安定期の患者の健康を支援するシステムです。情報支援システムと遠隔診療システムの二つを提案します。

ADD アド



カルテポートにある健康記録と指示書を使い、患者と医師の情報のやり取りをネットワークを介して支援するシステムです。

Cross クロス



自宅で診察が受けられる遠隔診療システムです。ADDによる情報のやり取りを基に、遠隔で診察を行います。

ADDとCrossを使うと

- ・患者は自宅にいても遠隔診療という形で医師の診察が受けられます
- ・患者の身体の変化を見ることが出来ます
- ・医師は診察外でも患者の様子や、患者からの疑問などを知ることができ、しかも次の診療に活かすことができます